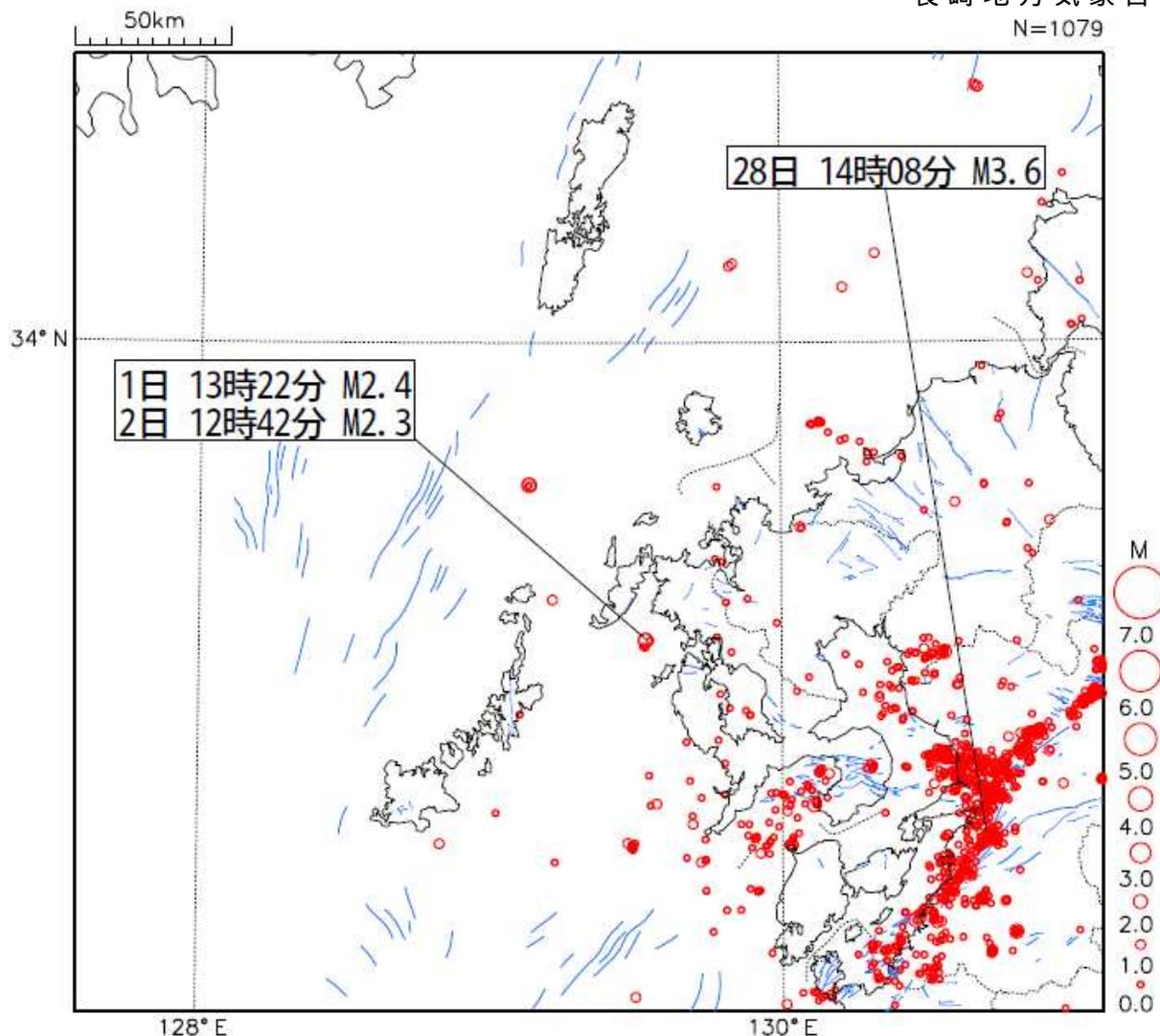


長崎県の地震活動概況 (2018 年 4 月)

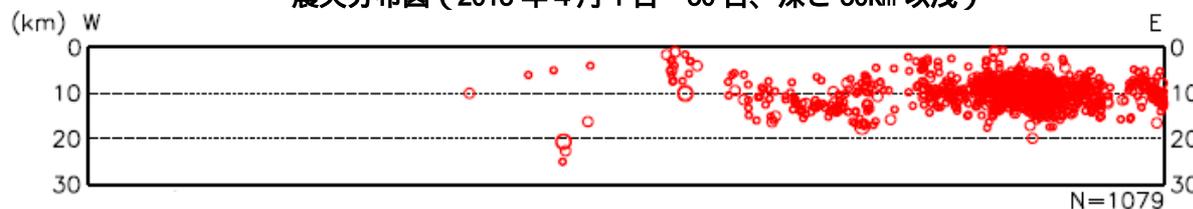
平成 30 年 5 月 11 日

長崎地方気象台

N=1079



震央分布図 (2018 年 4 月 1 日 ~ 30 日、深さ 30km 以浅)



断面図 (2018 年 4 月 1 日 ~ 30 日、深さ 30 km 以浅)
(震央分布図を南の方から見た断面図です)

地震活動の概況 (2018 年 4 月)

4 月に長崎県内で震度 1 以上を観測した地震は 4 回でした (3 月 : 0 回) 。
詳細は以下 (次頁以降) のとおりです。

本資料の震央分布図の青色のラインは活断層を示す (活断層のデータは新編日本の活断層による) 。
本資料は、国立研究開発法人防災科学技術研究所、北海道大学、弘前大学、東北大学、東京大学、名古屋大学、京都大学、高知大学、九州大学、鹿児島大学、国立研究開発法人産業技術総合研究所、国土地理院、国立研究開発法人海洋研究開発機構、公益財団法人地震予知総合研究振興会、青森県、東京都、静岡県、神奈川県温泉地学研究所及び気象庁のデータを用いて作成しています。また、2016 年熊本地震合同観測グループのオンライン臨時観測点 (河原、熊野座) 、米国大学間地震学研究連合 (IRIS) の観測点 (台北、玉峰、寧安橋、玉里、台東) のデータを用いて作成している。

五島列島近海

1日13時22分に五島列島近海でM2.4の地震(深さ10km)が発生しました。この地震により、平戸市志々伎町で震度1を観測しました。また、ほぼ同じ場所で2日12時42分にM2.3の地震(深さ10km)が発生しました。この地震により、平戸市志々伎町で震度1を観測しました(図1、表1)。

今回の地震の震源付近(図2領域a)で発生した地震により、長崎県内で震度1以上を観測したのは、2005年2月9日に発生したM3.3の地震(深さ10km、最大震度2、長崎県は佐世保市、平戸市で震度2、佐々町で震度1)以来です(図2~3)。

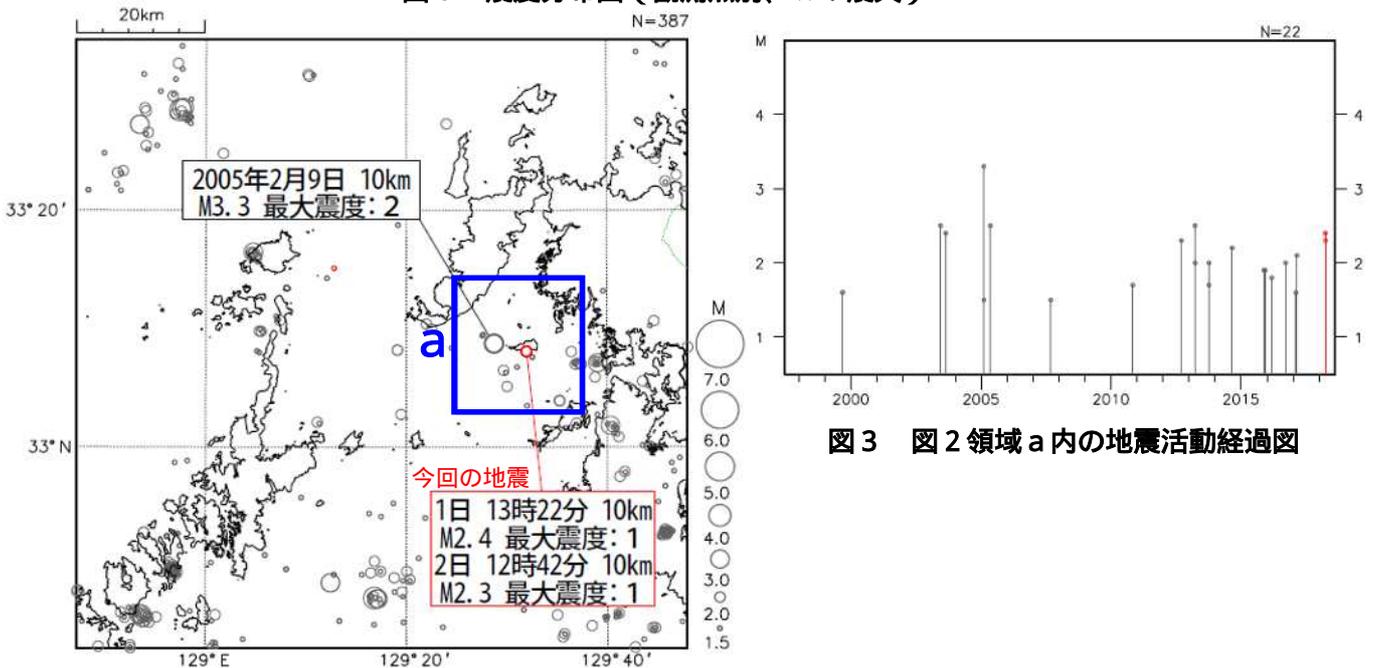
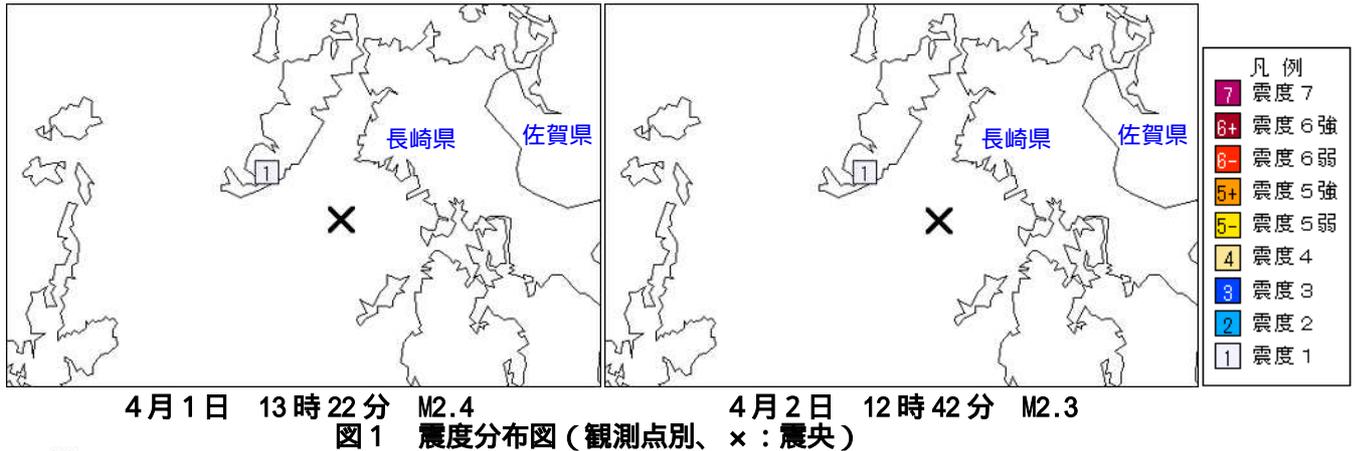


図2 震央分布図
(1997年10月1日~2018年4月30日 深さ0km~30km M 1.5)
2018年4月1日以降の地震を赤で表示

表1 これらの地震により長崎県内で震度1以上を観測した地点

No. 1	2018年4月1日13時22分	五島列島近海	33° 08.0' N	129° 31.9' E	10km	M2.4
長崎県	1	平戸市志々伎町*				
No. 2	2018年4月2日12時42分	五島列島近海	33° 08.0' N	129° 32.0' E	10km	M2.3
長崎県	1	平戸市志々伎町*				

注1) 震源要素(緯度・経度・深さ・M)は、暫定値であり、データは後日変更されることがあります。

注2) *を付した地点は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

島根県西部（1頁震央分布図領域外）

9日01時32分に島根県西部で発生したM6.1の地震（深さ12km）により、島根県大田市で震度5強、島根県出雲市、雲南市、川本町、美郷町で震度5弱を観測したほか、中国地方を中心に、中部地方から九州地方にかけて震度4～1を観測しました。長崎県では、松浦市、諫早市、雲仙市で震度1を観測しました（図4、表2）。

今回の震源から東北東に約70km離れた場所では、2000年10月6日に「平成12年（2000年）鳥取県西部地震」（M7.3、最大震度6強）が発生し、鳥取県、岡山県、島根県などで、負傷者182人、住家全壊435棟、住家半壊3,101棟などの被害を生じました（総務省消防庁による）。この地震により、長崎県では平戸市、雲仙市で震度2、佐世保市、長崎市、諫早市、壱岐市で震度1を観測しています（図5～6）。

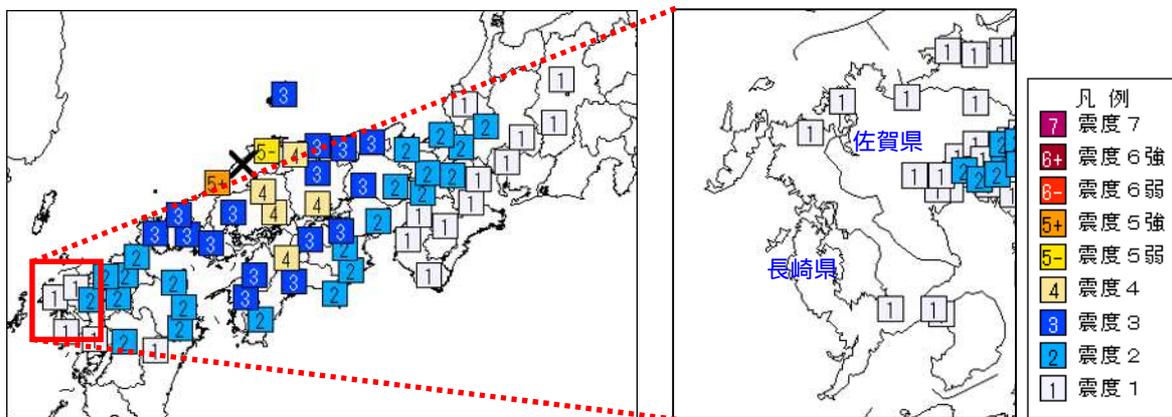


図4 震度分布図（左図は地域別、右図は観測点別、×：震央）
4月9日 01時32分 M6.1

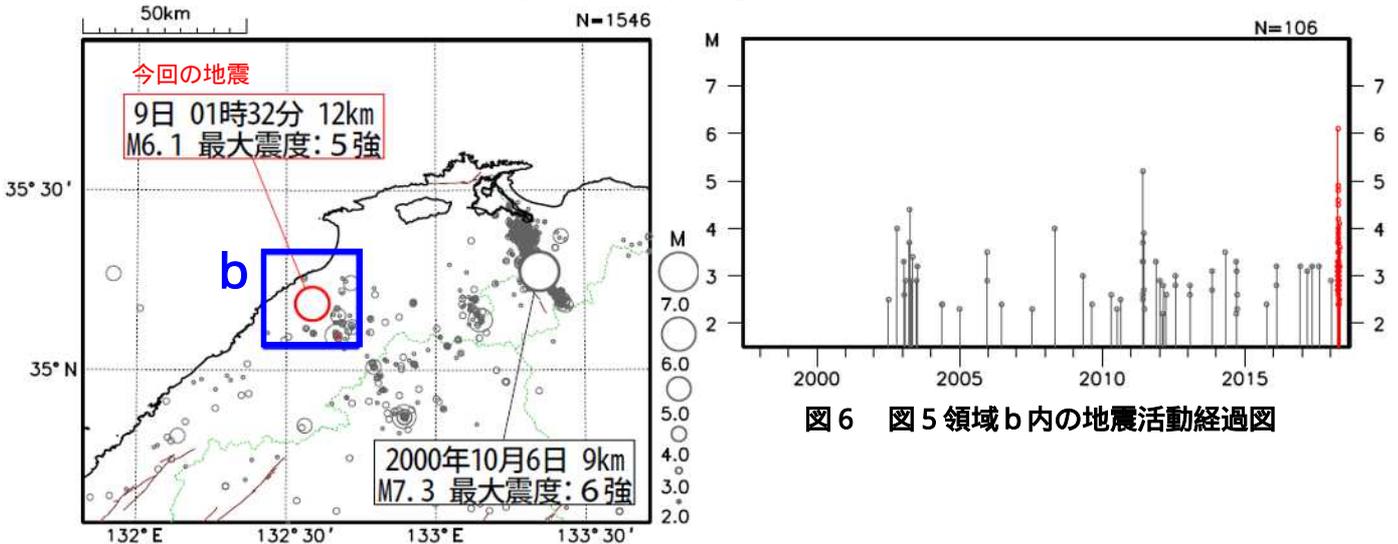


図5 震央分布図

(1997年10月1日～2018年4月30日 深さ0km～30km M 2.0)
2018年4月1日以降の地震を赤で表示

図6 図5領域b内の地震活動経過図

表2 この地震により長崎県内で震度1以上を観測した地点

No. 3	2018年4月9日01時32分	島根県西部	35° 11.0' N 132° 35.2' E	12km	M6.1
長崎県	1	松浦市志佐町* 諫早市多良見町* 諫早市森山町* 雲仙市愛野町*			

注3) 震源要素（緯度・経度・深さ・M）は、暫定値であり、データは後日変更されることがあります。

注4) *を付した地点は地方公共団体または国立研究開発法人防災科学技術研究所の震度観測点です。

平成 28 年 (2016 年) 熊本地震

28 日 14 時 08 分に熊本県熊本地方で発生した M3.6 の地震 (深さ 12km) により、熊本県で震度 2 を観測したほか、長崎県、熊本県、宮崎県、鹿児島県で震度 1 を観測しました。長崎県では雲仙市で震度 1 を観測しました (図 7、表 3)。

「平成 28 年 (2016 年) 熊本地震」に関しては、以下の気象庁ホームページをご参照ください。
気象庁 (熊本地震特設ページ)

http://www.jma.go.jp/jma/menu/h28_kumamoto_jishin_menu.html



4 月 28 日 14 時 08 分 M3.6
図 7 震度分布図 (観測点別、× : 震央)

表 3 この地震により長崎県内で震度 1 以上を観測した地点

No. 4	2018 年 4 月 28 日 14 時 08 分 熊本県熊本地方 32° 34.1' N 130° 41.7' E 12km M3.6				
長崎県	1	雲仙市小浜町雲仙			

注 5) 震源要素 (緯度・経度・深さ・M) は、暫定値であり、データは後日変更されることがあります。

地震資料に使用される図の見方

長崎地方気象台では、地方公共団体等による日頃の災害予防の活動を支援するため、「長崎県の地震活動概況」を毎月作成し公表しています。また、長崎県で震度4以上の揺れを観測した場合や津波警報等を発表した場合には、防災対応に資するために「地震解説資料」を作成し公表しています。

今回は、これらの資料に使用される主な図の見方について解説します。図は「平成 28 年（2016 年）熊本地震」を例として掲載しています。

1．震度分布図（図1）

震度分布図は、各地の震度観測点で観測した震度を地図上に表示し、地震による揺れの強さや範囲を表現したものです。震度5と震度6にはそれぞれ強弱があり、例えば震度6強は「6+」、震度6弱は「6-」と表示します。また、地震による揺れが広範囲にわたり多数の観測点の震度がある場合には、図が煩雑にならないよう、各地域内、各市区町村内で観測した震度の中で最も大きな震度を代表させて表示することがあります（図1は地域別の震度分布図の例）。

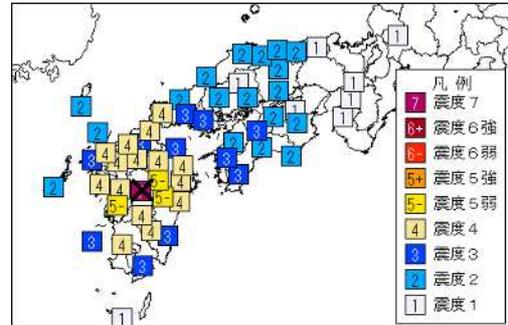


図1 震度分布図(地域別、×は震央)

2．震央分布図（図2）、断面図（図3）

震央分布図は、地震が発生した場所を地図上に表示し、地震活動の面的な広がりを表現したものです。表示するシンボルの大きさや形を変えることで、地震の規模（マグニチュード、以下、「M」）や震源の深さを表現することができます。

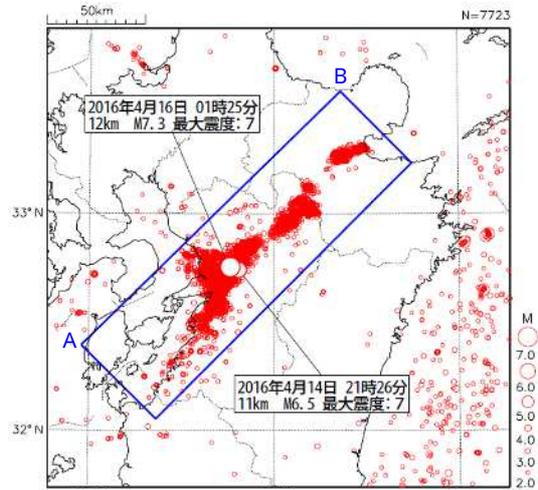


図2 震央分布図

また、断面図により地震活動の立体的な広がりを表現します。図3は、図2の矩形で区切られた領域を南東方向から見た断面図です。この断面図を見ると、地震活動が深さ20kmよりも浅い所で発生していることがわかります。

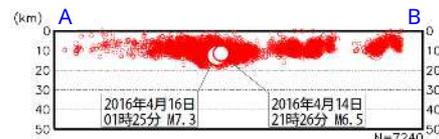


図3 断面図(A-B投影)

3．地震活動経過図と回数積算図（図4）

地震活動経過図は、ある領域内において時間の経過と共にどの程度の規模の地震が発生したかを表現したものです。

また、回数積算図は時間経過毎の地震発生数の積算（合計）数を表現しています。回数積算図を見ることで、発生した地震の増え具合を把握することができます。

図4は、図2の矩形で区切られた領域内の地震活動経過図と回数積算図です。この図を見ると、2016年4月16日にM7.3の地震が発生した後、時間の経過とともに発生する地震のMは小さくなり徐々に減衰していますが、活動は継続していることがわかります（縦棒は短くなり疎らになるが、折れ線は右上がり傾向が続く）。

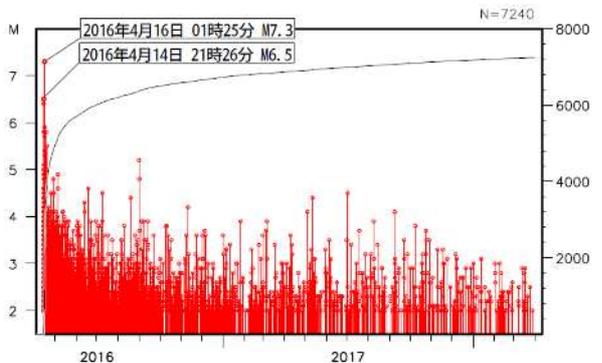


図4 地震活動経過図および回数積算図